

公立大学法人神戸市外国語大学 第2期中期計画及び2013年度の年度計画の概要について

第2期中期計画の概要

第2期は、2016年度に創立70周年を迎えることを契機とし、大学の基盤となる教育や学術研究を充実させるとともに、学生の主体的な学修や留学、ボランティア、就職など、大学生活を通じて段階的に成長できるよう、総合的な学生支援の制度や環境を整備する。

このなかで、国際都市である神戸市の大学として、海外の大学などとの国際交流提携先をさらに拡充することに加え、大学と地域とのつながりの創出に努め、人文社会科学にわたる幅広い知見を活かし、神戸の行政や地域、企業、学校園などとの連携を深めながら、神戸市の様々な取組への参画と貢献を推進する。

第2期中期計画における主な指標（2013～2018年度）

①優秀な志願者の確保

- ・総志願倍率4倍以上の高水準を維持

②学生の海外留学等の促進

- ・長期留学者数 2011年度31名→50名
- ・海外の国際会議発表助成制度（博士）2011年度2名→6名

③高い就職率の維持

- ・2011年度卒業生97.1%（全国93.6%）→全国平均に比べ高水準の維持
- ・インターンシップ派遣数 2011年度16団体29名→倍増（58名）
- ・国際コミュニケーションコースのTOEIC平均 900点超の維持

④海外の提携大学等の増加

- ・交換交流提携 2011年度23大学→35大学 ・学術提携 2011年度5機関→10機関

⑤地域貢献の拡充

- ・地域の行政や団体などとの提携数 2011年度1機関→5機関
- ・小中高校の英語教育支援事業 2011年度6件→増加

⑥学術研究の充実

- ・研究プロジェクト支援事業（国際会議など） 第2期に3件以上
- ・科学研究費補助金に関わる総件数と研究者の実人数（受入及び新規申請の合計）
2011年度80件、49名→増加
- ・大型科研費申請件数 毎年度1～2件を確保

⑦自律的・効率的な大学運営

- ・市派遣職員数 2011年度30名→毎年2名程度を削減、
- ・職員人件費（退職金除く） 2011年度比10%程度の削減
- ・寄付金収入 6か年合計1億円以上 ・施設の外部団体利用料収入 6か年合計5千万円以上
- ・総エネルギー使用量 2010年度比10%削減の水準を維持

2013年度の年度計画（主な取組）

第1 国際的に通用する人材の育成

- ◎全学科の専攻語学の語学授業のガイドラインの策定（授業の質的向上）
- ◎ゲストスピーカー制度の新設（ジャーナリストなどの学外者を招へい）
- ◎大学院修士課程の課題研究コースの制度設計の完成
- ◎通訳翻訳分野のダブルマスター制度の検討（モナッシュ大学（オーストラリア）などとの協議）
- ◎大学独自の学生調査の導入（大学生活への満足度や生活実態を調査）
- ◎男女共同参画課と連携した女性のキャリアデザインの新規実施

第2 高度な学術研究の推進

- ◎国際会議やシンポジウムの開催を大学が支援するための制度の新設
- ◎学術論文などをウェブ上で保存・公開するリポジトリシステムの本格実施の開始
- ◎新たな学術提携先の開拓

第3 地域貢献

- ◎科目等履修生制度の充実
- ◎市教委との連携による小中高校の英語教員対象の各種研修の充実、小学生の外大訪問、中学生イングリッシュフェスティバルの開催や、高校生英語ディベートコンテストの開催支援
- ◎大規模災害時の学生ボランティア活動への大学の支援のあり方の検討
- ◎国際都市神戸に果たす意義と貢献方策の検討
- ◎地域の区役所、経済団体、国際機関などの新たな事業提携先の開拓

第4 国際交流

- ◎学生の海外留学支援の拡充（留学支援基金の設置）
- ◎春入学、秋入学の日本語プログラムの開講（留学生受け入れ）
- ◎各学科の地域を中心に、海外の大学との学生交換・交流提携先の開拓

第5 柔軟で機動的な大学運営

- ◎理事会運営の高度化（学長懇談会やIRをテーマにした役員会の新規開催）
- ◎固有職員の育成及び職員事務事業改善提案制度の新規実施
- ◎第2学舎の増設の基本設計の実施
- ◎70周年記念事業の実行委員会の設置